

テーマ：計量ベクトル空間

【計量ベクトル空間】 • 実ベクトル空間  $V$  の各 2 元  $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  に対して実数  $(\mathbf{u}, \mathbf{v})$  が定義されていて次の 4 条件を満たすとき、 $(\cdot, \cdot)$  を  $V$  の内積と言い、 $(V, (\cdot, \cdot))$ 、または単に  $V$  を 計量ベクトル空間 ( 実計量ベクトル空間 ) と言う。

- 1°  $(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = (\mathbf{v}, \mathbf{u})$
- 2°  $(k\mathbf{u}, \mathbf{v}) = k(\mathbf{u}, \mathbf{v}) \quad (k \in \mathbf{R})$
- 3°  $(\mathbf{u} + \mathbf{u}', \mathbf{v}) = (\mathbf{u}, \mathbf{v}) + (\mathbf{u}', \mathbf{v})$
- 4°  $(\mathbf{u}, \mathbf{u}) \geq 0 \quad (\text{等号は } \mathbf{u} = \mathbf{0} \text{ のときのみ成立})$

•  $\mathbf{R}^n$  に標準内積を考えた計量ベクトル空間を特にユークリッド空間と言う。

◊ 計量ベクトル空間でも、ユークリッド空間と同様にノルム・角度・直交系・正規直交系・正規直交基底を考えられ、シュミットの直交化法も No.18 のプリントと全く同じ式で使える：

- $\mathbf{u} \in V$  に対し  $\|\mathbf{u}\| = \sqrt{(\mathbf{u}, \mathbf{u})}$  を  $\mathbf{u}$  の長さ、または  $\mathbf{u}$  のノルム と言う。
- $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V$  ( $\mathbf{u}, \mathbf{v} \neq \mathbf{0}$ ) に対し  $\cos \theta = \frac{(\mathbf{u}, \mathbf{v})}{\|\mathbf{u}\| \cdot \|\mathbf{v}\|}$  で決まる角度  $\theta$  を  $\mathbf{u}$  と  $\mathbf{v}$  のなす角 と言う。  
( シュヴァルツの不等式 ( 後述 ) により右辺は絶対値 1 以下の実数になる。 )
- $(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = 0$  のとき  $\mathbf{u}$  と  $\mathbf{v}$  は直交する と言う。

◊  $V$  の一次独立なベクトルの組  $\{\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_m\}$  が与えられたとき、次のアルゴリズムで正規直交系  $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_m\}$  を得る：

```
for k := 1 to m do
begin   v := u_k - sum_{j=1}^{k-1} (u_k, a_j) a_j;   a_k := 1 / ||v|| v
end;
```

特に  $\{\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_n\}$  が  $V$  の基底ならば  $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n\}$  は  $V$  の正規直交基底になる。

【定理 A】  $(V, (\cdot, \cdot))$  を実計量ベクトル空間、 $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V$ ,  $k, \ell \in \mathbf{R}$  とするとき次が成り立つ。

- (1)  $\|k\mathbf{u} + \ell\mathbf{v}\|^2 = k^2\|\mathbf{u}\|^2 + 2k\ell(\mathbf{u}, \mathbf{v}) + \ell^2\|\mathbf{v}\|^2$
- (2)  $(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = \frac{1}{2}\{\|\mathbf{u} + \mathbf{v}\|^2 - \|\mathbf{u}\|^2 - \|\mathbf{v}\|^2\}$
- (3)  $|(\mathbf{u}, \mathbf{v})| \leq \|\mathbf{u}\| \cdot \|\mathbf{v}\| \quad (\text{シュヴァルツの不等式})$
- (4)  $\|\mathbf{u} + \mathbf{v}\| \leq \|\mathbf{u}\| + \|\mathbf{v}\| \quad (\text{三角不等式})$

【定理 B】  $(V, (\cdot, \cdot))$  を  $n$  次元の実計量ベクトル空間、 $\Lambda = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  を  $V$  の正規直交基底とする。このとき  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V$  の  $\Lambda$  に関する成分を  ${}^t(x_1, x_2, \dots, x_n)$ ,  ${}^t(y_1, y_2, \dots, y_n)$  とすれば、

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = x_1y_1 + x_2y_2 + \dots + x_ny_n,$$

$$\|\mathbf{x}\| = \sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}$$

が成り立つ。

【208~210】  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, \mathbf{y} = \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2$  に対して  $(\mathbf{x}, \mathbf{y})$  を次の式で定義すると内積の条件を満たしていることを確かめよ。

【208】  $(x, y) := ac + 2bd$

【209】  $(x, y) := 2ac + ad + bc + 2bd$

【210】  $(x, y) := 3ac - ad - bc + 2bd$

【211～214】  $x = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2$  に対して  $(x, y)$  を次の式で定義しても  $\mathbf{R}^2$  の内積とはならない。その理由を述べよ。

【211】  $(x, y) := ac - bd$

【212】  $(x, y) := a^2 + b^2 + c^2 + d^2$

【213】  $(x, y) := ac + 2ad + 3bc + 4bd$

【214】  $(x, y) := ac + ad + bc + bd$

【215～216】 実数係数の 2 次以下の  $x$  の多項式のなす実ベクトル空間  $V = \mathbf{R}_2[x]$  の 2 元  $f, g \in V$  に対して  $(f, g)$  を次の式で定義すると内積の条件を満たしていることを確かめよ。

【215】  $(f, g) := \int_0^1 f(x) g(x) x^2 dx$

【216】  $(f, g) := f(0) g(0) + f(1) g(1) + f(2) g(2)$

【217～218】  $V = \mathbf{R}_2[x]$  の 2 元  $f, g \in V$  に対して  $(f, g)$  を次の式で定義しても  $V$  の内積とはならない。その理由を述べよ。

【217】  $(f, g) := \int_{-1}^1 f(x) g(-x) dx$

【218】  $(f, g) := f(0) g(0) + f(1) g(1)$

【219】 実数係数  $n$  次正方行列全体の集合  $M_n(\mathbf{R})$  において  $(A, B) := \text{tr}({}^t A B)$  は内積の条件を満たすことを確かめよ。

【220～221】  $V = \mathbf{R}_2[x]$  の 2 元  $f, g \in V$  に対して  $(f, g) := \int_0^1 f(x) g(x) dx$  によって内積を定義するとき、次で与えられる  $V$  の基底  $\Lambda$  に対してグラム-シュミットの直交化法を実行せよ。

【220】  $\Lambda = \{1, x, x^2\}$

【221】  $\Lambda = \{x^2, x, 1\}$

【注意】 レポート問題 2, 3 の様に、連続関数に対しては積分を用いて内積( , )を定義することができる。すると

$$2 \text{ 関数 } f(x), g(x) \text{ 間の距離} = \|f - g\|$$

と定めることができ、関数に対して近い・遠いといった議論を定量的に展開することができる。